

九州大学法学部ニュース : 第14号

<https://doi.org/10.15017/26251>

出版情報 : 法学部ニュース. 14, pp.1-10, 2013-03-31. 九州大学法学部広報委員会
バージョン :
権利関係 :

平成24年度 学位授与式(卒業式)

平成25年3月26日に、平成24年度九州大学学位授与式(卒業式)が行われました。
卒業者は法学部193名、修了者は法学府26名です。



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会



大学1年生の夏、私は知り合いからの招待を受け、高校の先生方が集まる小さなパーティーに参加しました。そのとき私は、隣に座られた先生に、「大学の魅力は何だと思われませんか」と質問しました。すると、先生はすかさず「人との出会いだ」と答えられました。大学の4年間を終えるにあたり振り返ってみると、全くそのとおりであったと思います。

大学には、出身地も過ぎてきた環境も、将来の目標も全く異なる人たちが集まっています。また、講義の選択など、ほぼ全ての行動が学生の裁量に委ねられているため、十分な時間が保証されている分、意義ある学生生活を過ごすという責任も生じます。そのような学生生活の中で、私は多くの出会いに恵まれました。あるときは講義で、あるときはゼミで、またあるときは部活動を通じて、議論を交わし、ときに力をあわせ難問に立ち向かう中で多様な価値観や考え方にふれ、それが私の視野を広げてくれました。先生方や同級生、先輩後輩との出会いが確かに私を磨き、成長させた4年間でした。法律実務家を目指す自分にとって、法律の勉強は必要ですが、それ以外にも、社会情勢や現代の文化などを学び、アップデートし続けるとともに、人の意見に常に耳を傾けることが、実務におけるバックグラウンドとなる知識として不可欠であると考えてに至りました。

卒業後、私たちは就職あるいは進学を迎え、多くの人々が別々の進路をとります。それでも、大学生活で習得した物事の考え方、そして4年間で築きあげた人間関係は、どのような道に進むとしても、必ず将来役に立つことと思います。

今日、私たちが晴れて卒業を迎えるにあたっては、先生方をはじめ多くの方々の支えがありました。この紙面を借りて、その全ての方々に感謝するとともに、前途多難になるであろう私たちの将来を今後も見守ってくださるよう、切にお願いいたします。

4年間ありがとうございました。



インターカレッジ民法討論会にて

法学府 学位授与式



吾郷教授(国際経済法) 最終講義

法学研究院の吾郷眞一教授の最終講義が2013年3月15日に行われました。

吾郷教授は、小・中学校の4年間をドイツのギムナジウムで教育を受けられ、1971年に東京大学法学部を卒業されました。同年、同大学院法学政治学研究科に入学され、修士課程、博士課程に進学された後、1974年にはジュネーブ大学高等国際問題研究所博士課程に入学され、1977年に同課程を修了されました。そして1989年には同大学から博士号を授与されました。



吾郷教授は1977年に埼玉大学、1980年に国際労働機関本部に奉職後、1993年に九州大学法学部教授に着任されました。教育のみならず、2001年から2003年まで法学研究院長、2008年からは副学長として大学行政にも尽力されました。

最終講義には、学生、卒業生、教職員などが集まり、「国際法の実施」を題目とした講義に聞き入りました。

最終講義終了後には、法学部の大会議室にて、「吾郷先生お疲れ様会」が開かれ、卒業生や学生、教職員らが盛大に吾郷先生の長年の労を労いました。



1951年の法学生

—ヴェーバーとシャルモン—

手島 孝 (九州大学名誉教授)

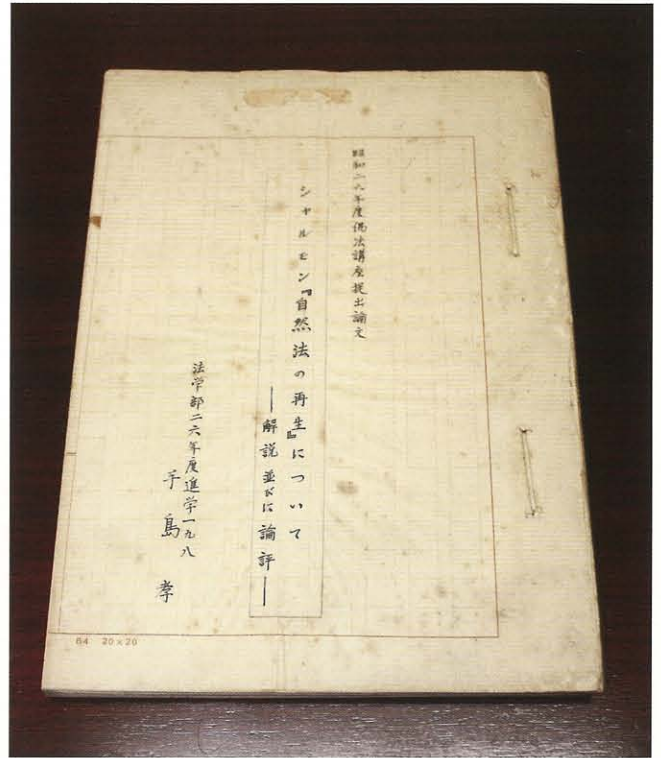
ここに、器用に手製の紙縫で綴じられた古ぼけた原稿用紙の束がある。四百字詰め70枚余り。すっかり黄ばんだ表紙の題簽は、右端が「昭和二六年度佛法講座提出論文」、左端が「手島孝」と読める。

* * *

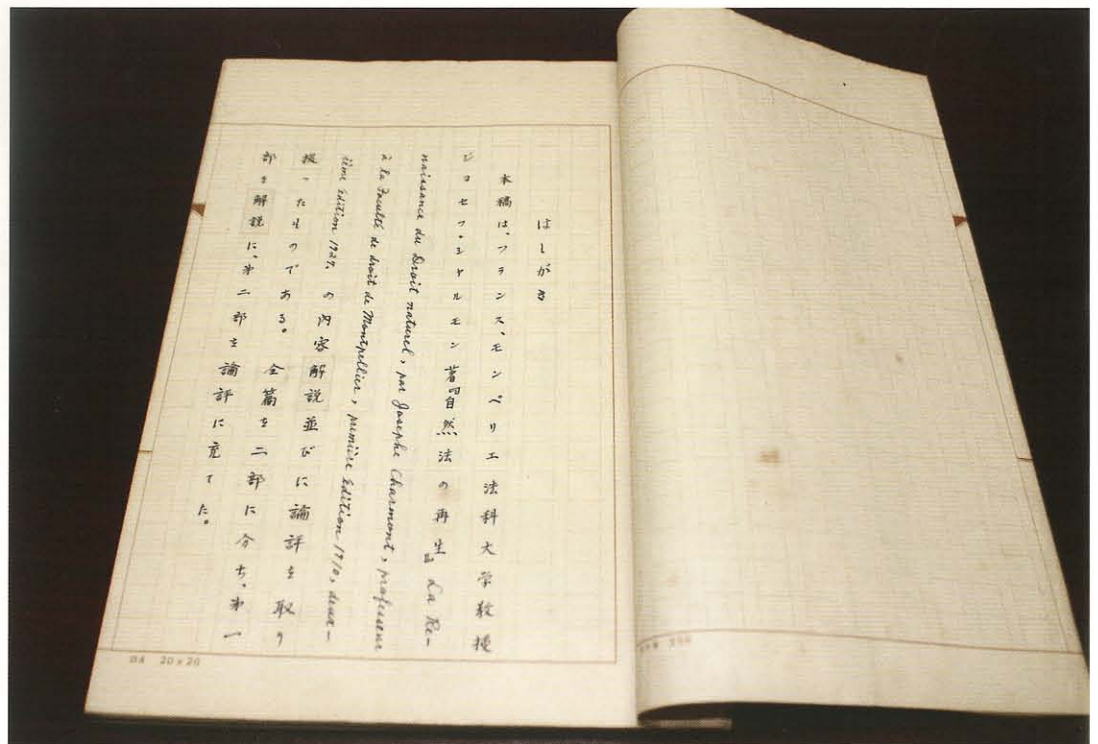
昭和26年といえ、戦火なお燻る1951年。九大法学部学生の私は、必修の法律専門諸科目とともに、獨(独)法と佛(仏)法と英法を選択・履修していた。これら3科目、看板こそいかめしいが、その実はそれぞれの外国語による法学原書(原文のタイプ・プリント)の講読で、どれか1つが必修となっていた。語学力が必要条件となるので、受講者がせいぜい2桁の独法・仏法に比し、英法は3桁台。従って英法だけは、例外的に大教場(箱崎の旧法文本館3階裏正面12番教室)での講義形式だった。その年度は後学期にゴルトシュミット『外から見た英法』(1939年)を教材に青山道夫教授(民法)が受け持ったが、印象は薄い。対して、小振りの教場(1階正面両翼の1番・2番教室)が舞台の独法と仏法は、競って手を挙げ訳解に挑む学生の熱気が、60年余を経た今もまざまざと記憶に甦る。

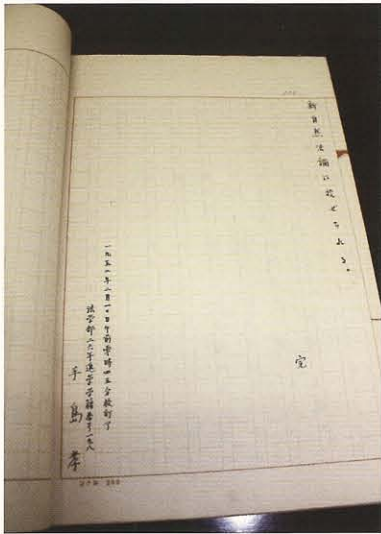
* * *

先ず前学期、^{しやうし} 荘子邦男助教授(刑法)担当の独法に出、難解を以て鳴るマックス・ヴェーバーの『職業としての政治』(1919年)に師弟一体となって取り組んだ。常連の学生に五高出身の西島梅治君(のち法政大学教授・商法)もいた。大戦を生き延びた30歳前後、白面の生真面目な助教授の談では(そして私も追認したが)、この名著、戦前に邦訳が出版されたいが、本学図書館の目録にはあるもの



手島名誉教授の(処女論文)原稿「シャルモン『自然法の再生』について—解説並びに論評—」の現物





当時の筆者。襟章のJは、戦前・戦後暫くの法学部生のシンボル。

の現物は行方不明と。けっして自分が借り出しているわけではないよ、と苦笑まじりでの付言は真っ正直の言わずもがなだったが。

講演録とて小冊とはいえ、大碩学晩年の学殖を傾注した行文には、始めこそ博引旁証に振り回され論旨を掴むに精一杯だったが、やがて深遠な思索に惹き込まれて目眩くらめき、気がつけば週2時限(1時限は2時間)の10何週か(4単位)でB4判のプリント48枚の全文を読み上げてしまっていた。巻末に至り、宗教の「心情倫理」と政治の「責任倫理」の根本的な違いが力説され、「政治とは、情熱と目測力を以て堅い板に強くゆっくり穴を穿つこと」と喝破する警世の激情ほとばしの迸りは、前(第1次)大戦敗北直後混迷のドイツと、第2次大戦に一敗地にまみれ塗炭に苦しむ日本と、背景の異同を超えて言々肺腑を衝いた。

なお、当時すでに世に伝わっていなかった戦前の邦訳とは、後年知った所では若き清水幾太郎によるもの(シュミット「政治の概念」の翻訳と併せ『政治の本質』?として三笠書房刊)。皮肉なことに、われわれがガイドなしで四苦八苦した51年4~10月の翌年1月、岩波文庫から訳本(西島芳二訳)が出ている(80年以降は脇圭平の新訳が取って替る)。

* * *

後学期には、西山重和教授(国際私法)による仏法えんの講筵に連なった。テキストは、ジョセフ・シャルモン『自然法の再生』(初版1910年、第2版1927年)。大部ではないが、それ

でも原著で200頁を超える分量を4単位講読方式で読みこなすのは、流石に独法ほしのとき(翌年出た訳本が、当時の岩波文庫★1つ~100頁前後~)のように問屋が卸さず、途中で終わったが。もっとも、配付されたプリントは独法のたしか倍量はあり、ほとんど全冊に及んでいた(そのどのあたりまで進んだかは、当のプリントが紛失していて、今は定かでない)。

長老教授西山先生は、旧制中学卒だけで苦学力行、高文の外交科に合格して外務省入りの後、学界に転じた異色の経歴。いつの世も学生は教師の嗜好きだが、教授をめぐる酒とフランス語が常人離れとの伝説が流布していた。駐割さつないし留学時の知り合いなのか、テキストの著者をシャルモンさんと親しげに呼ぶのだった。

受講生仲間の白石司君(のち九電工社長)など曰く、あの伝じゃモーパッサンは本名モーパッカねえ。

しかし、小声で諄々と説いて倦まぬ佇まいには竹林の賢人の概があり、20世紀初頭のヨーロッパにおける自然法思想の復活現象に鋭く着目して沈思させずには措かぬ原本と相俟ち、アカデミズムの神髄を垣間見る思い。レポートが課されたので、全巻に目を通した上で「シャルモン『自然法の再生』について—解説並びに論評—」を作成・提出した。当然ながらその後(第2次大戦後間もなく)の『自然法の永劫回帰』(ロメン)にまでは目配りできなかった文字どおりの若書きで、意余って力足りず、今にしては忸怩たるものがあるが、忘れられないわが処女論文。である(当時の常として、写しなどないまま手許を離れた)。

* * *

星移り40年近く経った1990年の10月11日、実にその原稿が思いがけず戻ってきた。故西山教授の令息が、遺品の中に見つけたからとて、わざわざ届けて下さったのである。月並みだが、感慨無量とはこのことか。末尾に「一九五二年二月一〇日午前零時四五分校訂了」とある。衣食住すべて困窮の極にあり、かの六無斎も三舎を避ける底の貧書生の、炬燵も火桶すらない凍てつく深夜の四畳半が、まなかに髣髴として消えない。

台湾研修旅行に参加して

(2012年9月実施)

2012年9月下旬、法学部の希望者の中から選抜され、台湾研修旅行へ参加させていただきました。全5日間にわたる今回の研修旅行は、1日目のPwC法律事務所台北オフィス訪問に始まり、現地の大学生との学生交流、司法院見学、大法官(台湾司法院にて、判決とは別に憲法解釈、法律解釈を専門にされる最上位の裁判官)との懇談会等、非常に充実したものでした。可能ならば、すべての企画について詳述したいところなのですが、紙幅の都合上、私が特に印象に残った、台湾大学・台北大学での学生交流についてご紹介します。

まず台湾大学は、歴史的には本校と同じ旧帝国大学で、台湾で最も有名な大学です。キャンパスは広大で、ほぼ中央に位置する附属図書館は施設がとても綺麗に整備されており、壮大な印象でした。一方、台北大学は、主に社会科学系の学部が充実している大学です。法学部棟の中には学生が各種活動(法学部生の懇親会企画や英語ディベートの準備等)をするための部屋が多数用意されているのに加え、外国の文献を集めた外国書センターが設置される等、こちらも法学部生が勉強するのに良い環境がありました。それぞれ1日ずつという短い交流期間ではありましたが、在籍の先生による特別講義や食事会、市内案内等も含めて、とても心のこもった歓迎をしていただきました。

これらの交流中、最も盛り上がった話が両国の大学制度の違いです。台湾の法学部生はほとんどが大学院に進学し、司法試験を目指す学生が多いと聞いて、始めは、その学問に対する熱心な学生の多さにとても驚いてしまいました。もちろん台湾の学生の皆さんがそうであることに間違いはないのですが、それは台湾の就職事情と深く関係しているようで、台湾で自分の納得のいく就職先へ行き、それなりの給料をもらうためにはそれ程のキャリアを積んでおかなければならず、やむを得ずそうしている人が圧倒的多数とのことでした。

今回の台湾研修旅行が自ら行く海外旅行や大学の講義で外国法を学ぶことと異なる最大の点は、現地の人の生の情報、そして生の感覚を得られた、ということにあると思います。今年度に卒業を控えた私にとって、今回の研修で学んだことを日々の勉強に生かすことができないのは非常に残念ではありますが、これから社会を作り上げて行く一人の人間として、今回の経験をどこかで生かせたらと思います。



法学部4年

栄留 卓哉



台湾大学法学部の学生との交流会にて



台北大学法学部の学生との交流会にて



陳大法官との懇親会にて

法学部同窓会が開催されました

乾杯



第37回九州大学法学部同窓会が2012年10月19日(金)に、西鉄グランドホテルにて開催されました。

当日は、総会、懇親会が行われ、300名を超える卒業生・在校生・教職員が参加し、九大法学部の団結を強めました。

法学部の同窓会は毎年10月の第3金曜日に行われます。同窓生の皆様、是非ご参加ください。

懇親会



司会を務めた法学部3年の牛島さんと上枝さん

法学部教員の近著 (判例解説を除く)

※法学部HPでも随時紹介しています。

法学セミナー編集部(編)
『論文式試験の問題と解説/民事篇 2006-2011年』(日本評論社)
七戸教授
2013年2月

大賀 哲
『東アジアにおける国家と市民社会—地域主義の設計・協働・競合』(柏書房)
大賀准教授
2013年2月

松浦正孝(編)
『アジア主義は何を語るのか—記憶・権力・価値』(ミネルヴァ書房)
大賀准教授
2013年2月

入江秀晃
『現代調停論——日米ADRの理念と現実』(東京大学出版会)
入江准教授
2013年1月

西山芳喜(編)
『アクチュアル企業法』(法律文化社)
西山教授、上田(純)教授
2013年1月

法学部独自の 就職支援事業 について



九州大学では、全学の就職支援課として「学務部キャリアサポート課」という部署があり、就職活動の進め方の助言、エントリーシートの添削、面接でのアドバイス、就職支援イベントの開催などの事業を行っています。

法学部でも、2005年に「法学部就職支援委員会」を発足し、部局独自の就職支援を行っています。現在、「法学部キャリアデザイン委員会」と名称を変更し、幅広い活動を展開しています。2012年度は次のような事業を行いました。

1 法学部業界研究会(2012年10月24日、11月7日、2回開催)

就職活動の最初の一步となる業界研究です。さまざまな業種の企業さんに、業界の説明をしていただきました。参加学生は法学部以外の学生を含み、各日50名程度でした。

参加企業

西日本鉄道株式会社、株式会社安川電機、株式会社商船三井、キリンビール株式会社、旭化成株式会社、九州電力株式会社、みずほフィナンシャルグループ



キャリアデザイン委員長の野田教授挨拶

2 「法学部企業セミナー」(2012年12月3日～12月11日、7日間開催)

22社(ふくおかフィナンシャルグループ、IHI、鹿島建設、東芝、三菱UFJ信託銀行、帝人、キリンビール、みずほフィナンシャルグループ、JR西日本、新日鐵住金、三菱電機、富士フィルム、三菱ガス化学、三井住友信託銀行、日立製作所、

三菱重工業、トヨタ自動車、三井住友銀行、東京海上日動火災保険、東芝ロジスティックス、西日本シティ銀行、関西電力)の企業がお越しくださり、法学部講義棟で企業セミナーを開催しました。企業の採用活動のスタートです。



「法学部企業セミナー」キリンビールの説明会

3 個別企業説明会

企業の個別の説明会です。会社説明、キャリアパス、文系採用者の業務内容、採用情報、九大卒業生がどんな仕事をしているかなどを詳しく説明します。

- ① 西日本鉄道株式会社(2013年1月23日)
- ② キリンビール株式会社(2013年2月8日)
- ③ 株式会社東芝法務部門(2013年2月18日)
- ④ 三井住友信託銀行(2013年2月27日)



西日本鉄道(株)の個別会社説明会

4 中央省庁の説明会

法学部には、国家公務員や地方公務員を志す学生が多数います。公務員を志望する学生に対し、各中央省庁の説明会や内定者懇談会を実施しています。

- ① 厚生労働省業務説明会 2012年10月31日
- ② 国土交通省業務説明会 2012年10月31日
- ③ 国税庁説明会 2012年11月15日
- ④ 厚生労働省内定者懇談会(2回)
2012年11月16日、2013年2月18日
- ⑤ 総務省説明会(3回) 2012年11月28日、
2013年2月21日、2013年3月14日



厚生労働省の業務説明会

以上のような就職支援事業は、法学部独自のものですが、文系の他学部(経済学部・文学部・教育学部)をはじめ、工学部・理学部・農学部など、理系の学生も参加可能です。

就職活動について、何から始めたらよいのかわからないといった疑問や不安がある学生は、「学務部キャリアサポート課」や「法学部キャリアデザイン委員会」(委員長:野田教授)に気軽に相談してください。

5 その他

法学部の事業ではありませんが、「学務部キャリアサポート課」の就職支援事業では法学部の卒業生で、総務省勤務の小村将之さんが業務説明会の講師を務めてくださいました。法学部の国家公務員志望の学生にとって、先輩の活躍されている姿は励みになります。



法学部OBで総務省勤務の小村さん

平成24年度 進路先一覧

(平成25年3月26日現在)

卒業生 204名(進学38、企業79、公務員51、その他36)

右欄は、女子で内数
※9月卒業生含む

企 業		
東京海上日動火災保険	4	4
ゆうちょ銀行	3	
日立製作所	3	2
西日本鉄道	3	2
西日本シティ銀行	3	1
福岡銀行	2	1
トヨタ自動車	2	1
住友生命保険	2	1
NTTデータ	2	1
りそなグループ	1	
りそな銀行	1	
山口銀行	1	
山九	1	1
森田修学館	1	
明治安田生命	1	1
宮崎県学校生協	1	1
三菱東京UFJ銀行	1	
三菱電機	1	
三菱商事	1	
三菱自動車	1	
三井住友信託銀行	1	
ミスターマックス	1	1
富士通	1	
福岡地所	1	1
久恒病院	1	
農林中央金庫	1	
日本放送協会	1	
日本政策投資銀行	1	
日本政策金融公庫	1	1
日本触媒	1	
東レ	1	
東横イン	1	1
電通九州	1	
電源開発	1	1
中国木材	1	
第一生命保険	1	1
ソニー損害保険	1	
双日	1	

スターフライヤー	1	
新日鉄住金	1	1
信金中央金庫	1	
城山観光	1	1
清水建設	1	1
ジェーシービー	1	
三幸製菓	1	
熊本大学	1	1
クオカプランニング	1	1
九州労働金庫	1	1
九州電力	1	
大西総合法律事務所	1	1
エスケーホーム	1	1
上組	1	
インフォテック朝日	1	1
伊予銀行	1	1
いのうえ真一事務所	1	
アコム	1	
SMBC日興証券	1	
NTTデータ九州	1	
IHI	1	
I&S BBDO	1	
住友倉庫九州	1	1
河合塾	1	1
ヨドバシカメラ	1	
牧野フライス製作所	1	
計	79	34

公務員		
福岡市	10	7
福岡県	4	
福岡地方裁判所	3	3
鹿児島市	2	1
熊本県	2	1
熊本市	2	1
久留米市	2	1
島根県	2	
愛媛県	1	1
大分市	1	

鹿児島家庭裁判所	1	1
九州防衛局	1	
霧島市	1	1
熊本地方裁判所	1	
厚生労働省	1	1
財務省財務局	1	1
佐賀県	1	
佐賀市	1	
佐世保市	1	
衆議院事務局	1	
総務省	1	
内閣府	1	1
東広島市	1	
福岡国税局	1	1
福岡地方検察庁	1	1
福岡入国管理局	1	1
防府市	1	
南島原市	1	1
宮崎市	1	1
宗像市	1	1
大分県	1	
広島市	1	
計	51	26

進学先		
九州大学法科大学院	15	5
九州大学法学院	11	4
京都大学法科大学院	2	1
東京大学法科大学院	2	1
一橋大学法科大学院	1	1
岡山大学法務研究科	1	
九州大学統合新領域学府	1	
九州大学比較文化社会研究科	1	
神戸大学法科大学院	1	
中央大学法科大学院	1	
日本大学法科大学院	1	
明治大学法科大学院	1	
計	38	12

編集後記

「法学部ニュース」第14号をお届けします。学位授与式の学生の顔はそれぞれに印象的です。
ご意見・ご感想・寄稿をお待ちしています。

炭崎 貴子(sumisaki@law.kyushu-u.ac.jp)